

平成29年度 事業計画

社会福祉法人改革を含め介護保険制度を取り巻く状況が著しく変化してきている中で、地域の自主性に基づき、特性に応じて住み慣れた場所で自分らしい生活が継続できるよう医療・介護・生活支援等が一体的に提供できるいわゆる地域包括ケアシステムの深化・推進が重要である。大津市の介護保険事業計画に沿いながら同時に高齢者の多様なニーズに対応するため、地域資源としての千寿の郷あり方が問われつつあります。

全国的にも人材不足である介護分野では、人材の定着の低さとそれを補う形での介護ロボットの導入支援が課題としてあげられ、知識・技術の向上と働きやすい職場環境の改善も急務です。

千寿の郷では、「おむつゼロ」「ひとり浴」「認知症ケア」から「いつまでも楽しく安全に安心して暮らせる施設」へとその方向性を示してきました。そしてこれからは時代や制度に沿った施設づくりも必要不可欠ではないかと考えます。地域貢献等の公益性・非営利性などを示していく事を勘案しつつ、来年の医療介護同時報酬改定を見据え、乱立する他事業所との競争にも対応できる経営基盤の堅持も継続しなければなりません。

このように複雑多様化する介護分野を踏まえ「重介護度利用者への効果的な支援と尊厳あるケア、働く者への心身の負担軽減と風通しの良い職場環境の促進を図り、地域に根ざす継続可能な施設経営を伸展する」という旗印の下、職員一同努力を惜しまず、理念達成と以下の重点事業を計画します。

重点事業

1 介護・医療との連携や地域高齢者への在宅介護が継続できる支援体制

介護度3以上が入所条件となり、利用者の介護事故軽減対策の観点から専門的な知識・技術の向上が急務になるほか医療依存度も高くなるので、医療との連携を更に強固なものとしたい。

今年度から大津市の日常生活支援総合事業実施に伴い、千寿の郷でもそれに向けた在宅介護サービスの充実を目指しているところですが、平成30年度の介護報酬改定を見据え体制のシミュレーションを行います。

2 地域貢献の推進

社会福祉法人改革が行われ、「千寿の郷アピール・あり方」が問われています。地域の実情に応じた住民の生活のしづらさを共に考えて他施設との個別化を図り、地域のニーズに対応していきます。

3 継続性のある財源確保

収入面では特養95%・ショート94%・デイ75%の稼働率を継続目標にして、支出の面では高騰する人件費をコントロールしつつ、各部署が効率化に努め、光熱水費など節約を促し、サービスとそれに係るコストバランスを見ながら未来への再投下可能となるよう財源の確保に努めます。また、経年している中で必要な修改善は可能な限り計画的に実施していきます。

4 何でも話し合える職場環境づくり、職員の心身の健康保持

重介護度の比率がますます高まるにつれ、ストレスも溜まりつつあります。ストレスチェック制度を活用し、精神的にも負荷がかからないような雰囲気作りとお互いが話し合えるような職場環境の整備に努めます。必要に応じ介護ロボットの効果的な導入を検討していきます。

5 職員の定着と人材育成

新人・中途採用者育成マニュアルの策定に取り組みます。加えて、積極的な資格取得や幹部候補生の育成キャリアアップは勿論のこと、モチベーションの向上が利用者の豊かな暮らしに反映できるよう各専門研修も積極的に参加を促します。

7 災害対応

特に土砂災害に備えて隣接障がい者施設との合同避難訓練や地元自治会との災害時における相互応援体制の確立を目指します。

8 その他

産業廃棄問題である陀羅谷問題では、保安林内道路を保安林の維持管理や住民のための生活道路以外に使用することに反対する自治会の意向を尊重しつつ両隣の施設間の情報共有や防犯も含めた連携を親密に図ります。